

2019年04月16日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ゴールデンウィーク(GW)は休んだ方が良い】

今月は、来週からゴールデンウィーク(GW)がスタートします。

この時期には、毎年、同じことを繰り返しコラムにしています。

今年のゴールデンウィーク(GW)は、10連休です。

日本にとって、今年は特別な年であり、長期の連休はそのお祝いの意味もあるのですが、日本が休みの期間に、海外のマーケット(金融市場など)がオープンしていることが気になります。

日本のゴールデンウィーク(GW)の期間は、世界のマーケット参加者が取引を控えるようになり、値段が乱高下しやすくなることがあるからです。

GW期間中に「遊びもFXも」と欲張ると、なおさら危険です。

「遊びながら、相場でも儲ける」と安易に考えているならば、損して当たり前。

相場をやるなら、休みを返上して、真剣にフル態勢で臨むべきと考えます。

遊びながら適当にやって儲かるほど相場は甘くありません。

それでもやりたい、遊びはあきらめてフル態勢で真剣に臨むというのであれば、引き止めるすべはありません。

ただし、今年の年初に外国為替市場で、大きな変動があったことも、十分に思い浮かべて、相場に臨んでください。

+++++

ゴールデンウィーク(GW)の「アノマリー」について述べておきましょう。

「アノマリー」とは、相場の「セオリー」のように高い確率で「そうなる」ということではなく、根拠は無いのだけれど、「そうなりがち」「そうなることが多い」という意味合いの言葉です。

マーケット参加者の多くが休暇を取るGW期間中、夏休み期間中、クリスマス休暇中は、相場が薄くなって荒れやすくなります。

なぜ薄いと荒れるのか？

個人的な感覚に過ぎないのですが、市場参加者がたくさん集まっている平時の相場には、それぞれの思惑が交錯して、それぞれの「買い」や「売り」が現れ、マーケットに「厚み」が生まれています。

だから節目節目のチャート・ポイントに値段が到達すると、待ち構えていた買いたい人、売りたい人のオーダー（注文）が入り、順調に取引が成立していきます。

マーケットの流れに乗りたい人もいれば、逆向かいする人もいて、バランスの取れた相場になります。

ところが、マーケットが薄い時は、売りたい時に売れなかったポジション、買いたい時に買えなかったポジションが、どんどん持ち越されてしまい、チャート・ポイントに到達しても、それらが消化しきれずに、一気に突き抜けてしまうのだ、と考えます。

逆向かいする人がいたとしても、持ち越されたポジションが、相対的に多過ぎて押し流されてしまうのだろう、と考えます。

今年の年初の相場で、ドル／円が大きく急落したことがニュースになりましたが、まさしくそんな状況だったのだろう、と考えます。

アノマリー的なことを言えば（だから必ずというわけではないのですが）、マーケット参加者の多くが休んでいる間に起こったことが、休み明けに再び起こり、まるでデジャブ（既視感）現象のような相場になることが、多々あります。

つまり、ゴールデンウィーク（GW）中に、相場が荒れる場合は、ゴールデンウィーク（GW）が明けてから、なぞるように同じような値動きをすることが多々ある、ということです。

ただし、アノマリーですから、必ずではないし、そういったことが起こり易い、といった程度のことに過ぎないことにも留意してください。

+++++

（2019年04月16日東京時間14：30記述）